



1. ポリオってどんな病気ですか？

◆ ポリオは人から人へ感染します。

ポリオは、ポリオウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもあります。乳幼児がかかると多い病気です。

◆ ポリオウイルスに感染すると手や足に麻痺があらわれることがあります。

ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあらわれずに、知らない間に免疫ができます。しかし、腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。重症の場合は死亡することもあります。現在、残念ながら特効薬などの確実な治療法はありません。治療的治療がないので、ワクチン接種が唯一の予防法です。

2. 日本ではもうポリオは発生していないのに、ポリオワクチンの接種が必要なのですか？

◆ 予防接種によってポリオの大流行を防ぐことができました。

日本では 1960(昭和 35)年に、ポリオ患者の数が 5 千人を超え、かつてない大流行となりましたが、生ポリオワクチンの導入により、流行はおさまりました。1980(昭和 55)年の 1 例を最後に、現在まで、野生の(ワクチンによらない)ポリオウイルスによる新たな患者は出ていません。

◆ 今でも、海外から、ポリオウイルスが国内に入ってくる可能性があります。

海外では、依然としてポリオが流行している地域があります。パキスタンやアフガニスタンなどの南西アジアやナイジェリアなどのアフリカ諸国です。また、これらの国の患者からの感染により、タジキスタンや中国などでも発生したという報告があります。

ポリオウイルスに感染しても、麻痺などの症状が出ない場合が多いので、海外で感染したことに気が付かないまま帰国(あるいは入国)してしまう可能性があります。症状がなくても、感染した人の便にはポリオウイルスが排泄され、感染のもととなる可能性があります。

3. 生ポリオワクチンと不活化ポリオワクチンはどう違うのですか？

◆ 生ポリオワクチンには、病原性を弱めたウイルスが入っています。

「生ワクチン」は、ポリオウイルスの病原性を弱めてつくったものです。ポリオに感染したときとほぼ同様の仕組みで強い免疫が出来ます。免疫をつける力が優れている一方で、まれにポリオにかかったときと同じ症状が出る場合があります。

◆ 不活化ポリオワクチンは、不活化した(殺した)ウイルスからつくられています。

「不活化ワクチン」は、ポリオウイルスを不活化し(=殺し)、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して病原性を無くしてつくったものです。ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はありません。

4. ポリオとWHOとロータリーの関係(廣畑富雄著「ロータリーの心と原点」、他より)

1979年、国際ロータリー(RI)は、フィリピンの600万人の子どもたちに、ポリオの予防接種を行う活動を始めました。

1985年2月、ロータリー創立80周年に当たって、RIは、ポリオ・プラス計画を発表しました。

最初のキャンペーンが発表された当時、日本では、ロータリーが外に向かって資金集めをするということはほとんどなく、加えて、全世界的な活動を展開することには、大きな抵抗がありました。I serve か We serve か、至るところで議論されたものですが、約束を守るのがロータリアン、日本でも、最初に公約した金額をはるかに超えた資金を集めました。

国際連合の世界保健機関であるWHOが世界ポリオ根絶計画を開始した1988年当時、毎年35万人程度のポリオ症例が発生していましたが、経口生ポリオワクチンの集団接種により、野生型ポリオウイルス伝搬を遮断することによって、2000年には3500例以下と1/100に減少しました。2009年には1606例とさらなる減少が報告されています。WHOはロータリーの貢献を非常に高く評価していますが、わが国では残念ながらロータリーの貢献をロータリー外ではほとんど知られておりません。

ロータリーとパートナー組織の努力の結果、ポリオ常在国だったインドは、2012年1月までの一年間、ポリオの新たな発症が報告されず、2月WHOは、同国を常在国のリストから除外しました。現在、常在国は、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3か国になりました。ポリオ撲滅はあと少しのところまでできました。

わずか60セント(約50円)で、1人の子どもをポリオから守ることができるのです。子どもたちの命を守る活動に参加して頂けるロータリアンを待っています。